



呉高専自動車部

放課後の校庭に響くエンジン音。むき出しのエンジンからは、熱い鼓動のような振動が伝わってくる。

呉高専自動車部は、全日本手作りゼロハンカーレース大会学生クラスで2年連続優勝し、今年は3連覇を目指す。

普段は、バイクなどを解体し、塗装や溶接して再び組み直すなど、ゼロハンカーの整備や改良以外にも各自自由に活動し、技術を磨く。「先輩達と仲間になれるし色々教えてもらえらる」と話す中野雄大さん(機械工学科1年)は、入部して3カ月余り。「自分らも、今以上に技術を身につけたいし。後輩た

ちにも自分たちからどんどん吸収していつてほしい」と松井基展さん(建築学科3年)は言う。顧問の野村先生(機械工学科助教)のものづくりの公開講座でも、部員達は快く助手を引き受けている。

今年の大会は、8月19・20日の2日間にわたり世羅町甲山で開催される。ゼロハンカーは試合前日、チームとともに会場へ移動する。学校のトラックに、1台は前輪をロープで宙づりにして載せるなど、積み込むにも工夫。

会場では、コースのセッティングも参加者が行うという、まさしく手作りの大会だ。



昨年ドライ

昨年ドライパーとして出場した坪下慶介さん(機械工学科3年)によると「車高が低いんで、走つてるときは、目の前の地面くらいしか見えなくて怖いです。視界の端を景色が飛ぶように流れていく感じ。でも気分は爽快です。土の上を走るときの振動が直に伝わってくるのが、体に心地いいのだとか。「去年会場で、たくさんさんのマシンを前にして、エンジン音やレースの迫りに感動

したのを、今でも覚えている」と話す川口玄太さん(機械工学科3年)の瞳も熱を帯びる。大会では、運も結果を大きく左右する。どんなに完璧に整備したつもりでも、スタートでエンストしてしまったり。レース中の故障や不具合の発生もよくあるそうだ。

ゼロハンカーは、エンジンの排気量が50ccの車で、後退なしの6変速エンジン。ギアエンジンはバイクの仕組みに近い。製作は、フレームなどの設計に始まり、部品によつては1/100ミリ単位で作っていく。「手作りだと、改良点はいくらでもあるわけで。改造していくうちに、思いどおりの性能を出せた瞬間は、『ヤッター!』て感じ」と、目を輝かせながら上坂 徹さん(機械工学科3年)は語る。「皆で本番ぎりぎりまで改良を重ねて、3連覇を目指したい」との、部長の川口翔太さん(機械工学科3年)の言葉に、皆が頷く。

8月、自動車部の夢と期待を乗せたゼロハンカーは、3連覇をかけ甲山の地を駆けぬける。

